

子ども初参り

お正月にお参りいただいたお子さんに、小学生以下、先着20名様におみやげにお菓子を用意しています。

お子さん、お孫さんと一緒にお参りください。



初老や還暦の方々が団体参拝されますので修正会の始まる時間が変更となる場合もございます。

年始は一日午前四時半より二日午後四時まで受付します

修
は
つ
ま
い
り
正
会

一月一日午前六時より

ご
ぼ
は
ん

発行:真宗大谷派常入寺
富山市東老田787番地

電話(076)436-0816
FAX(076)436-2766
携帯090-3764-3983

発行責任:青井和成

初参り・初詣は ご縁の深いお寺で ゆきたしました

一周期	二〇〇九年命終
三回期	二〇〇八年命終
表	二〇〇八年命終
七回期	二〇〇八年命終
十三回期	一九九八年命終
忌	一九九四年命終
十七回期	昭和六十三年
(廿三回期)	昭和六十三年
廿五回期	昭和六十二年
(廿七回期)	昭和五十九年
卅三回期	昭和五十四年
五十回期	昭和三十六年
二〇一〇年	明治四十四年
年期	一九八四年命終
卅三回期	一九七九年命終
卅三回期	一九六一年命終
百回期	一九一一年命終
一周期	二〇〇九年命終

〔法要について〕 法要は年期というものに基づいて行われています。しかし仏教に基づくものではなく慣習からくるものです。ですから年期になつたから絶対に勤めなければいけないということはありません。基本的に法要とは法の要を聞くという行事なのですから、いつしなければいけないということではなく、法要を催したくなつた時に催せばよいものです。



御影堂門開門の様子

早朝の御影堂

満堂の中での「坂東曲」

祖徳讚嘆 (小川一乗氏)

左右に振り動かし、拍子をとりながら勤めるダイナミックな声明に、御影堂は厳かな空氣に包まれました。

2009.11.28

東本願寺写真ニュース

——報恩講最後日——

御清塵が勤められました

御影堂は参拝者で満堂となりました

<http://www.higashihonganji.jp/news/news.html>

報恩講最終日の28日は、日の出前から開門を待ちわびて並んでいた参拝者が、開門と同時に勢いよく御影堂へ入堂し、午前6時30分からお勤めする結願晨朝（けちがんじんじょう）では、参拝者のお念佛の声が響きわたりました。

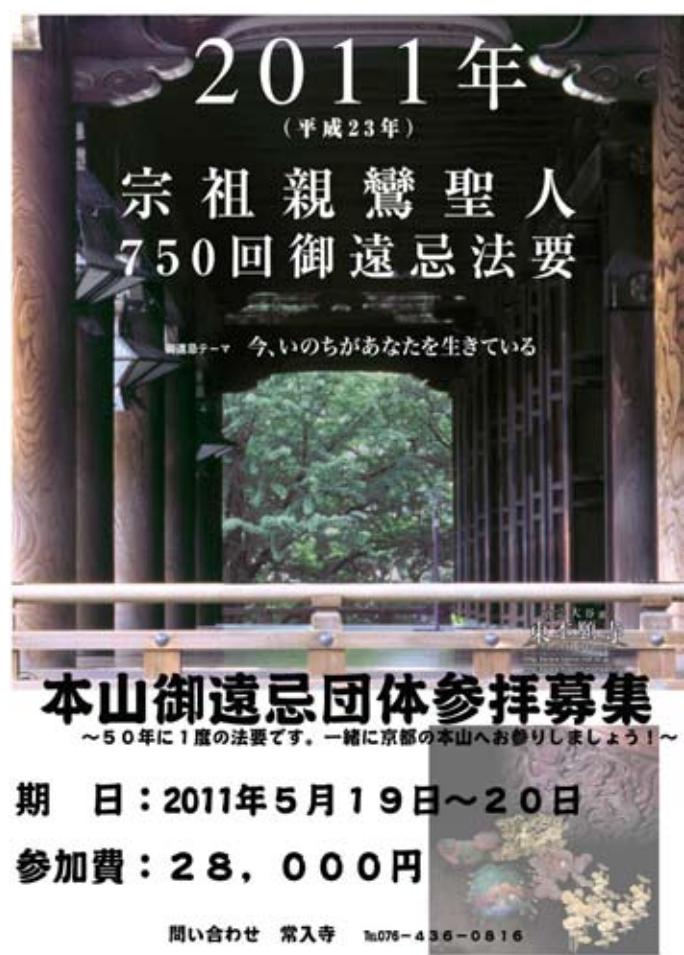
「年忌」や「忌中」という言葉で使われている忌という漢字を私たちは余りよい意味として使つていないので現状ではないでしようか。嫌うもの、タブー、はばかるもの、避けるもの、というような意味合いで使うことがほとんどなのではないでしようか。しかし本来はどうもそういう意味であったのではなかつたようです。

辞書を調べてみると忌みとう言葉には「忌み避けるべきこと。禁忌。はばかり」という忌みもありますが、もう一つ、「神に対し身を清め穢れを避けて慎む事」というようにかかれています。そしてこちらの方が元々の意味であり、転じていつて、嫌う、はばかるものと言いうように変化していくたようあります。

身を清めるということや、穢れを避けるということは私たちの教えに基づくとふさわしくない言葉ですが、私なりにそのことを踏まえて訳するならば、身をただして取り組んでいくという意味あいが元もとその言葉の持つている意味であつたのでは

「ええむ」 じゆうじゆうともうまく、アノ

んでもらうようにするための
仏事ではありません。有縁の
方々の死という事実をとおし



はないでしょうか。
そういう視点にて年忌と言うことを考えれば嫌つたり、はばかるべき年という意味ではなく、身をただすべき年と言うことになると私は理解しています。有縁の方がいのちを終えて行かれて三年経つ、七年経つ、そういう歳隔たつた今、有縁の人々が命終えていくという事実を、身をただし改めて受け止めしていく、自分が生きると言うことを考える仏事が、年期法要といふものなのではないでしょうか。咨嗟がもたらす、災いなどを避けたり、自分の所に幸を運んで我がいのち、我が人生を聞い仏法に聞く行事が法事であると私は理解しています。「忌中」ということも、何かを恐れて慎んでいる期間ではなく、死中」という事実に目の当たりにしたとき、我が死、我が生を身をただして考えていくときが忌中とていう期間なのでしょう、ですかういうこともなく、期間も定まつてなく、自らの思いに基づいてなく、行なうものなのでしょう。